令和６年度第１回倉吉市総合教育会議　会議録

１　日　　時　　　令和６年６月26日（水）午後３時

２　場　　所　　　倉吉市役所　大会議室

３　出 席 者　　　広田市長
教育委員会
中田教育長
田民委員　　　髙橋委員
伊木委員　　　德丸委員

会　　議　　の　　経　　過

（進行：教育委員会事務局長）
１　開　　会　　　午後３時

２　市長あいさつ

皆さんこんにちは。

今年度の第１回教育会議の開催ということで、教育委員の皆様には日頃からお世話になっておりまして本当にありがとうございます。

今の話ではないですが、この総合教育会議がもっともっと活性化しなければいけないというのは、議会の方から確かにいただいている意見でございます。だから私の方も答弁内容としては、事件・事故だけではなくて普段からいろいろな問題があれば、教育委員会とはしっかり意見交換なり協議、そういう場は設けていますので、改めて教育会議という場を何回も開催をしなくてもというお話をさせていただいているところでありますので、教育関係の問題が発生したり、また何かしら市長部局との関係でいろいろな取り組みが必要だという場面ではしっかり協議・検討もさせていただき、また予算も必要であればそれなりに対応していくという手続きはしっかり取っているんですよ、というお話もさせていただいたところですので、引き続きそういった対応にしていけたらなと思っているところであります。

今年度最初ということで中田教育長が就任されて初めての教育会議ということで、特別に変わったこともないわけでございますが、しっかりそれぞれ教育委員会さんの方の今の問題点なり、私どもからご提案させていただいた問題点をいろいろ教育委員さんの方と一緒になって協議をしていくということを引き続きやっていけたらなと思います。

本日はご案内の通り１番目は幼保小の接続についてということで、県教委の方からも坂根幼児教育担当様、本日おいでいただいていろいろな情報もまたご提供いただけるということで、私の

方からは中学生の地元定着に向けた取り組みについてということで、人口減少問題の対応等しっかり地域でやっていく中でのひとつの取り組み方についてとか、また皆さん方からいろいろご意見をいただいたらと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

3　教育長あいさつ

皆様こんにちは。

本当にたくさん市長部局からもおいでいただきましてありがとうございます。初議会がありまして、たくさんご指名をちょうだいいたしまして、答弁もたくさんさせていただきました。心配をしながら見守っていただきましてありがとうございました。その中でも今日市長からいただいたお題と言いますか内容はですね、議会答弁の中でもたくさん言わせていただいたふるさとキャリア教育というところに関係する部分だと思っております。そういう所を市長部局とも連携しながらということで答弁をさせていただいておりますし、皆さんもぜひいろいろとお考えいただいたりご意見ちょうだいできたらと思っております。

もう１個最初テーマになっていますのが、教育委員さん方の課題意識を持っておられます幼保小の接続についてということで、最新の状況をまずはお話いただきたいということで、今日は鳥取県教育委員会の小中学校課から幼児教育センターというのがあるんですけど、本年度より係長就任されました坂根係長においでいただいて最新の状況についてお話をしていただこうかなと思います。

倉吉市も幼保小の接続に関する研究会というのを各学校持っておりまして、年何回か会議を行っているんですけど、幼保小接続の意味合いっていうのも大分変わってきているところもありますので、今日はそういうところで最新の情報も聞いていただいて、教育委員さん方からもご意見をちょうだいできたらなと思っております。

いずれにいたしましても、この幼保小接続にしてもふるさとキャリア教育にしても、教育委員会だけではできない取り組みだというふうに思っておりますので、皆さんの知恵を借りながらしっかり進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

4　協議事項

（１）幼保小接続について

（資料により教育委員会事務局長説明）

事務局長　　まず１点目の幼保小接続についてということでございますが、本日は先程ありました通り、県の小中学校課の方から坂根係長の方においでをいただいておりますので、まずは現在の状況等をご説明をいただきながら、後の協議の場面においては指導・助言に当たっていただきたいと思いますし、本日は子ども家庭課とそれから保育園の方からも園長さんにもご出席をいただいておりますので、ご質問なりも含めてですね、協議が進めていければというふうに思っております。

それでは坂根係長よろしくお願いいたします。

（坂根講師による講演）

事務局長　　ありがとうございました。

今ご説明いただきました資料、パワーポイントページの36，37，39に取り組み状況の数字がございまして、これを見ると割と中部は県内でも進んでいる地域なのかなというふうには見て取れるんですが、倉吉市の現在の幼保小接続の取り組みについて、学校教育課長の方からですね、特に課題あたりにポイントを絞って説明をいたします。

（学校教育課長　説明）

事務局長　改めましてこの架け橋期というのが、5歳児から小学校1年生までの2年間ということが言われております。文部科学省では、令和4年度から今年度までの3年間かけてですね、集中的にモデル地域等も指定をしながら推進していくということで取り組みが進められているようでございます。

いずれにしてもこの幼保小の接続の取り組みについては、市長部局と教育委員会との連携というのは欠かせない部分になってきていると思いますが、まずは提案いたしました教育委員会の方から、中田教育長の方からまずちょっと口火を切っていただきながら、意見交換この接続のあり方等についてまたご質問等があれば、関係課なり保育園の方からも園長先生おいでいただいておりますので、ご質問なりしていただければと思います。よろしくお願いします。

教育長　坂根係長、ありがとうございました。今の考え方が短時間でしたけど、しっかりとまとめて話をしていただけたんじゃないかなというふうに思います。倉吉の状況については先程学校教育課の次長の方から話があったんですけど、接続という視点でまだ止まっているっていうのが、そういう状況なのかなというふうにも思いました。もう少し長いスパンで子供の成長を見ながら、幼児教育の間で学んでいること、体験していることをどんなふうに小学校に繋げていくかっていうことをそれぞれの小学校区でも、研究・検討していく必要があるのかなというふうに思っているところです。

実態で言いますと、例えばプール交流だとか、それから小学校で作った野菜を使ってのカレーを作ったので食べに来てくださいみたいなそういう招待交流だとかいうような、そのようなことが幼保小の接続の中では中心にはなってるんですけど、一歩踏み込むためには、どのあたりを大事にしていく必要があるのかなということ、もうちょっとだけ係長にお話をしていただくとありがたいなというふうに思っているところです。ひとつちょっとそのあたり、もうちょっと教えていただきますと大変助かります。

坂根講師　交流活動。おそらく、子供たちの交流活動というのは園と小学校・小学校区等でかなり工夫されて取り組まれているところが多いのではないかなと思います。ただその時にその交流をどのようなねらいを持ってされて行くのか、先生方、園側の先生方や小学校の先生方が、そこから子供たちにどんなことを学ばせたいのか。もしくは子供たちがその交流を通して、どんなことに気付いたり学んだりしたのか。先生方が事前の打ち合わせをされているのかどうか。そこで子供たちに、どんな力を付けたいと思っているのか。それを園の先生方、小学校の先生方が共有できているかというところが1つ目のポイントかなと思います。

そしてその交流後に短い時間でもいいので、例えば振り返りの会をしておられるかどうか。もしくは、そこでまた情報交換をしておられるかなというところもポイントかなというふうに、今伺いながら思ったところです。

子供たちの姿をまず何よりも大事にして、子供たちがその場でどのようなことを学

んで、それがどのようなことに繋がっていくのかというあたり。まずは園と小学校がしっかりと共有していくこと、そして次の交流ではどのようなことをしていこうかというようなところも、また繋がっていくところではないのかなというふうに今、考えさせられたところです。

教育長　　ありがとうございました。

ただ行事を終わらせるだけではなくて、やっぱりもうちょっと子供たちの長いスパンでの成長、それぞれが見守りながら交流を進めて行くということが大事なんだというようなことをお話しいただいたように思います。

ありがとうございます。

事務局長　　どうでしょう。教育委員さんの方から。

委員　　従来から幼保小との連携については、教育委員会でもちょっと意識してるというか、思っていることなので敢えて議題として出させていただいているんですけれども。計画訪問等で行かせてもらった時の小学校１年生の姿、授業中の姿とかそういったものを見る中、それから不登校があったりいじめがあったりする中で、幼保園でどんな小学校と繋がる時の指導というか、保育・教育をやっていらっしゃるのかなと思ったので、こういうテーマにしているんですけれども。

だいぶ以前に幼保小との指導者の研修会という、一回行かせてもらったことがあるんですよ。それで今日保育園の園長先生も来ておられるということなんで、アンケートの中で学校側の先生が思っている思いと、それから幼保園の先生が思っている思い、けっこう温度差があったようなコメントがあったんですけれども、そのあたりを幼保園側ではどのように、この繋がり交流を考えておられるのか、負担に思っておられるのか有意義だと思っておられるのかという生の声をちょっとお聞かせいただきたいです。

事務局長　　お願いいたします。

あと先程ももう一歩先というところで、行事とか終わった後の振り返りができているかという話もあったので、そこもお話いただければと思います。

高城保育園長　　ちょっとまず最初に振り返りのあたりから話を、接続活動交流した後の振り返りの方からお話させていただきたいんですけど、私は倉吉市では幼児教育研究会というものがすごく大きな意味を持っていると思っています。

年に２回各学校・園の校長・園長と集まって、去年は１年生とか年長児の担任も参加したんですけど、その中で１回目は交流連携接続へという、本当に何のために架け橋プログラムへ繋げるかとか、接続の大切さをお話いただきました。その中でコロナ禍で停滞していた、交流活動が去年少しずつ進んで行ったのですが、去年２回目に各校区でどんな交流をしていったかの振り返りを行いました。その中で先程坂根さんの方からお話がありましたが、交流の中のねらいを明確にして、その中でどんな子供の姿を目指して、私たち教員・保育士がどんな環境構成・援助を考えていって、実際の子供の姿はどうだったか。じゃあこれからどうして行こうかというのをシートにまとめていこうと、今年度は一個一個の交流をきちんと整理して行く、それを積み重ねて行こうというふうなことで２回目の幼児教育研究会が終わっています。なので、今年度はきっと各校区でいろんな交流をする中で、お互いに対話って話があったんですけど、目指す子供像・ねらいに向かっての話が進んでいくのではないかなというのは思っています。

ただ課題になるかなと思うのですが、校区ごとの温度差というのはあるのかなと思っています。私は実は今年度高城保育園に異動した身で、これから久米小学校の先生方と、どんなふうに繋がって行こうかなという中で、これから開かれるであろう幼児教育研究会は大きな意味を持っているのではないかなと思っています。

ご質問のあった接続については、うまく言えないかもしれませんが、育ちを学び、保育園は遊んでいるように、遊びと思われているところもあるのかもしれないですけど、先程お話もあった通り遊びは学びで、子供たちは、幼児期にいろいろなことを学んでいることをいかに学校・学びに繋いで行けるかが本当にこれからの課題であると思うのですが、負担には思ってはいません。

私の想像は、もしかすると学校側は授業をちゃんと座って聞ける子とか、ひらがなが読める子・書ける子とか。そういうあたりもあるのではないかなと。想像です。想像しますけど。保育園ではいかに自分で考えて主体的にどんどん遊んでいけるか、という子を目指しているので、そのあたりも含めて今求められている架け橋プログラムの中でもきちんと、園は「ここを育てました。」と伝える力を持たないといけないと思うし、だからそこを「これからお願いします。」と言える力が必要ですし、そのあたりを対話・交流とかを深めながら、振り返りとかをしながら、深めていけたらいいかなと思っています。

補足をお願いします。

灘手保育園長	灘手保育園は昨年度、灘手・成徳小学校区になって今年は打吹小学校区になったのですが、仲間に入れていただいて４園の保育園・幼稚園があって、あとは打吹小学校そして東中。東中も含めて打吹小学校区幼保小中連絡協議会というのを一昨年立ち上げて、そこに入れていただいているんですけれども、子供たちが安心して遊び・学びの積み上げができるようにということで、０歳から 15 歳の子供たちの育ちを教師を超えて、教職員みんなで見つめていこうという取り組みをしています。

それで、交流活動や研修会の相互参加や年長児と１年生の交流やいろいろあるのですが、今年度はそれにプラスして小学校の先生・中学校の先生に保育体験をしていただこうということで、学校の夏休み期間中に各園に来ていただいて、園の様子・子供たちの様子を見ていただいたらどうかなというのを今計画中です。まだ日にちの調整中なんですけども、やっぱり保育園というのは、それぞれの園で独特の文化があったりとか、特色のあることやっていると思うんですけれども、それを学校の先生に見ていただいて、きっと疑問に思われることもたくさんあるんだろうなと思います。それを率直に質問していただいて、どうしてこういう取り組みをしているんですか、どうしてこの活動をしているんですかというのを聞いていただいて、質問していただいてこういう目的でやっていますというのを伝えながら、また子供たちの姿を 10 の姿でとらえながら、共通の目線で見ていけたら、より俯瞰交流というか交流が深まるのかなと思って、今計画段階中です。私はそれがとても楽しみであります。

私は灘手に来て４年目なのですが、コロナ禍ずっとそういう交流、学校の先生に来ていただくっていうことがあんまりなかったんですけれども、よその校区では、もしかしたらコロナ以前は夏休み期間中に学校の先生が保育園・幼稚園に来て保育体験されていたのではないかなと思っています。それが各校区ごとに復活されて行くのではな

いかなと思っているところです。

委員　なかなかお話しにくいようなことを申し上げましてすみませんでした。

高城の園長がおっしゃるように、小学校の授業を見ていて15分ぐらいなのでじっとできないのかなとか、そんなこと思ったりするものですから、あえてそういった小学校に上がる段階で、10月以降例えば30分はじっとできるとかですね、園でも早寝・早起き・朝食を食べてこようとか、排便をしてこようというようなお話は、当然保護者を通じてですね、しておられると思いますし、そういったことでちょっと生の声がお聞きしたかったということで質問をさせていただきました。

幼稚園も私立が多いのでいろんな教育方針もあるでしょうし、いろいろあるのですが、とにかく元気よく小学校に通っていただくために、どういう取り組みをしたらいいのかということを一緒になって考えられたらいいなということで、幼保園ではやっぱり遊びを通じて自己表現をしたり自己抑制を学ぶというのは、その通りだというふうに思いますので、その中で小学校に上がるまでのところで、どんな自立がひとりひとりの園児・幼児にできていくのかなというのを記録に残して小学校に上げていただきたいなという思いでございました。

ありがとうございました。

委員　今日はありがとうございました。

いろいろとよくわかる今の鳥取県の取り組みとかいろいろ聞かせていただいて、こういう取り組みをされたのだというのをお聞かせいただきました

私もこの提案をしたのは、やはり先程あったように、小学校に計画訪問に行くと1年生はやはりもう入った時から夏休み前まで、けっこう先生は大変だというのをいろいろ聞いていまして。

また学力調査になると倉吉の子供たちの自己肯定感がけっこう割合が低いなというのがあって、やはりそれは幼児期からそういういろいろな取り組みをしていけば少しでも良くなるのではないかなと思っていて、今どういう取り組みをされてるのかなというのをお聞かせ願えたらなと思っています。

国の方では幼保小架け橋プログラムというのがあって、僕も実際ホームページを見ながら他県や他市の取り組みもいろいろ見させていただいて、今ちょうど中間評価が学区や市でも出ていまして、そこをいろいろ見させていただいたんですが、やはり遊びの中でどういった取り組みをしていくのかとか、あと、この市では子供はこういう姿になっていこうというはっきりさせたねらいを出していきながらされていますので、ぜひ倉吉でもそういう取り組みをされて、倉吉の子供の姿というのを何か決められて、それに向かっていくようなことをしていくのがいいのではないかなと思っています。

先程あった小学校区となると確かに、どうも小学校区によって差はあるのかなという感じは僕も感じます。やはり子供たちが少ないとか多いとかそういうところも出てくるんですけども、やっぱり少ないところはけっこう連携を密にしていろいろな話をされているとは思うのですが、大きい学校になるとその辺がなかなか、子供たちも通うところもいろいろな保育園や幼稚園やこども園なり、いろいろバラバラになってしまって、そこの辺でうまく繋がっているのかどうかというのが気にはなっているところですが、その辺はどんな感じか、もしわかればこんな感じだよなんて、何かあれば教え

ていただけたらと思うんですけど。

高城はほぼ学校に近い隣ですから、そういうのでけっこう密にはされているとは思うのですが、例えば、小鴨なんかは、小鴨も保育園はあります。でも西倉があったりとかみのりさんもあったりとか、あと他のけっこう働いてる方がいらっしゃるんでいろいろなところの幼稚園・こども園なりに行かれているところもあって、その辺で統一的なものはないんだけども、どういう接続連携をされてるのかなというのがもしわかれば。

高城保育園長　幼児教育研究会の話になってしまうんですけど、この会では校区ごとに集まって話をしています。私はやっぱり活動に対してのねらいかなと思っていまして、例えばプール交流、いろいろな園から学校に行ってプール交流にするにしても何をねらって、どんな子供の姿をイメージして、どんな手立てを準備して、どんなふうに振り返っていくかというあたりは、大きくても小っちゃくてもできるかなというのは思っています。そのあたりの積み重ねで、教員同士の共通理解ができるかなと思っています。

ちょっと話は変わるかもしれないのですが、私が感心したことは、社保育園にいたんですけど、先程６月ぐらいまで小学校１年生はバタバタしているとおっしゃったんですけど、社小学校の先生が園に来られて、学校は時間割があるんですけど、園もスケジュールというのを使ってるんですよ。絵や文字を使ってわかりやすく。今日は１番は遊んで朝の会をして次はこれをして給食ですみたいな。そのあたりを、持ち帰って真似されたりとか、持ち物の始末を絵にしているんですけど、そのあたりも真似されたりとかしてくださってて、あのあたりの姿勢は本当に円滑な小学校生活に繋がって行くのではないかなというのは感じました。

委員　ありがとうございました。

ぜひこれからもどんどんいろんなところでそういった活動を、その研究会の中でもやっぱり先程あったようにねらいをしっかりとして課題を出していって、その課題をどうやったら解決していくのかというのをしっかりと話し合いをしていただければ、倉吉の教育も良くなるのかなと思っていますので。

また子ども家庭課なり教育委員会を通じていろいろとしていただけたらと思っていますし、町の教育委員の方の話だと町は教育委員会の中にこども園も入っていて、こども園とか保育園にも訪問に行くようなことに、ほとんどの町と話したら保育園にも、小学校以外に保育園にもこども園に行くんですよって言っていろいろ見られていますので。ぜひ私は機会があれば何かそういうのも行けたらなと思っていますので、よろしくお願いします。

学校教育課長　先程委員さんが、倉吉市でどんなふうに子供たちを育てていきたいのかっていうことをおっしゃったんですけれども、先程も園長さんがおっしゃった幼児教育研究会の中で、接続カリキュラムを作ってらっしゃるんですが、小学校区ごとの目指す子供の姿というのを作っておられます。今日資料として出させていただいた社小学校区では３つ書いてありまして、挨拶・返事のできる子、伝え合い関わり合う子、意欲的に遊び学ぶ子というふうに決められておられます。こういうようなものを各小学校区で作っておられるということで、ご承知いただけたらと思います。

委員　せっかく子ども家庭課の皆さん等、他部署の方もおいでいただいているので、教育委

員会としての連携とか子ども家庭課さんとしての幼保園等への指導内容とかその辺の関わり方、それから保護者・幼保園等の保護者の方との関わり方、面談とか参観日があったり、いろんな懇談会があったりするでしょうけど、そのあたりのちょっと状況を教えていただけますでしょうか。

事務局長　委員。例えば保護者代表で教育委員になっていただいてるんですけども、保護者さんの中でこの架け橋プログラムだとか、幼保小連携みたいなことで何かこういう意見があったとか、もしあれば。

委員　特に保護者間ではこういう幼保小の接続について具体的な話が出るということ、日常的には正直なところあまりないです。

今日も保育園の園長先生がお話されていたんですけれども、いろいろな活動をされていって、かつ校区ごとに幼児教育研究会でお話されているということだったんですけれども、なぜこういう教育をしているかということを保育園の段階から保護者に知っていただく機会があればいいかなというふうに思います。今まで私もなかなか具体的に知ることがなかったので、小学校と交流しているな、楽しそうだなぐらいで終わっていたんですけれども、それが保護者が知れる機会があると、また家での子供に対する声掛けだとか、小学校に上がる時にワクワクした気持ちで勉強頑張ろうとか、そういうことに繋がるのではないかなと思うので、保護者への情報提供も少しあればいいのかなというふうに思います。

事務局長　ありがとうございました。どうですか。子ども家庭課さん。

灘手保育園長　灘手保育園では園だよりの方で、この打吹小学校区の交流のことについて載させていただいています。まだ載せたのは６月１回だけなんですけども、今後も継続して載せていく予定です。

はい。以上です。

委員　すいません。難しい質問をしたかもしれません。子ども家庭課の方に、いろいろな思いがあるのではないかと思って、どんな思いで仕事をしておられるのかなとちょっと聞いてみたくて質問したんですけれども。

今の自分自身がどうかというのはさておいて、家庭力、家庭の力が弱まってるというか、よく話を聞くんですよね。そういった中で赤ちゃんが生まれた時から幼保園・小学校・中学校・高校と上がるまでの、一気通貫の中で保護者の方とどうやって関わっていったら、家庭力が付いて子供たちにそのよりよい学びができるかということを考えていかないといけないと思うんです。それの中の役割のひとつが行政にあって、市長部局があり教育委員会がありということなんでしょうけども、そのあたりをどうやって連携していくのかという。

今お話があったりお話したりするこういう目的で今やってますよということを保護者の方にしっかりと伝えながら、家に帰って今日どうだったというような話し合いが、１分でも５分でもできるようなことを小さい時からやって行きながら繋げて行く。そういった取り組みを市全体として、もっともっとやっていかないといけない。

ですから教育委員会の中でも話をするのが、母子手帳をもらった時からもうすでに子育てが始まっているというか、それ以前かもしれないですけども、そういったところをもっと取り組んでいけないかなというふうに思ってます。これは私見ですけども。

事務局長　委員さん、いかがでしょうか。

委員　今日はお話ありがとうございました。

私は子供を３人育てまして、小学校・保育園もちろん過ごしてきましたけれども、こうやって改めて取り組みを文字にしてみると、いろんなことをしていただいてるんだなっていうことを再確認できました。とても追いつかないほどのことをしていただいていて、思っている以上に子供たちって手をかけて、見て、育てていただいてるんだなという実感をいたしました。

連携についてなんですけれども、保育園から小学校に上がって１年生はやはりちょっとなかなか落ち着きがないっていう印象ではありますが、よく保護者同士で話をしていたのは、「保育園の延長だからな。仕方がないわ。」みたいなそんな感じです。１学期の間はちょっとこう学級崩壊的なウロウロするような子がいたりとか、参観日の時に側転をして遊んでしまっている子がいるということもありましたが、仕方がないなっていうそういうところもありましたが、２学期になるとこれが落ち着いて、みんななんかいい感じになってきたなと、今までそういう風に見ておりました。

ここにも書いてあるようにプール交流だとか５年生との交流、こういうものもうちの子たちもやっていましたし、実際にやっている姿を見たりしています。５年生が保育園に交流に来ていたのを見た時、どちらかというと保育園児がとても嬉しそう、楽しそうですね。５年生はもう本当にお姉さん、お兄さんっていう感じでお世話をしているんですけれども、それに関わってもらっている保育園児がもうなんか生き生きして楽しそうでした。もちろん年がかなり違いますから自分たちにできないことが、お兄さんお姉さんはもうできるというその憧れの目で見ている感じがとてもありました。そういうものを感じながら、自分たちもこういうふうになりたいなっていう、そういうことを多分保育園児たちは感じていたんだなというふうに思っていました。

私は読み聞かせをしておりまして、小学校にも保育園にも入っております。保育園の読み聞かせは、時間がやはり子供の集中が長い時間は持たないので、年長、年中はいいですけど、どうしても年少、未満児はちょっと集中力が途切れてしまいます。今、泉先生がおられますからよくご存じなんですけど、高城保育園で、一昨年ぐらいまではもうちょっと長い時間していたんだけれども、最近になって時間を短くしてくださいと言われて時間を短くしています。小さい子だから持たないのはもちろんわかっているんですけど、さらにもしかしたら集中力は続かなくなっているのかなと感じるところもありますが、仕方がないかなと思っています。でもそれも年中、年長になればもうしっかり座って聞いているので、心配なくできるようになることだなと。成長と共にできるようになるそれは人間の本能であり、先生方がいろいろ行事を通じて、培ってくださっているその結果であると思っています。

私は主任児童委員というのをしていまして、地域の生後６ヶ月の子供たちに絵本を持って行くという活動をしております。まさに今日行ってきたところで、そのお宅は４人兄弟で４番目の子供さんが６ヶ月。一番上は中学校１年生。この中２人が小学校ということで、上の子たちがとてもその下の子の面倒を見てくれるということで、この子はとてもいい環境にいるんだなと思いました。

小学校と保育園の連携について、今ここに書かれている交流の時間は多分かなり限

られてると思うんですが、難しいかもしれませんが、こういう交流の時間がもっと増えればまたちょっと違ってくるのかな、増えればいいなとそういうふうに思っています。

今日はありがとうございました。

事務局長　そろそろ時間の方が迫っておりまして、ここまでの議論の中で坂根係長さんの方から、コメントなりご助言がいただければと思いますがいかがでしょうか。

坂根講師　まずはこの会議で、様々なお立場の方がいろいろなこのような話をさせていただく場に来させていただいてありがとうございました。ということなんですが、やはり子供たちの育ちや学びは繋がっているということ、それから先程もありましたが、園と小学校それぞれのお立場の方がしっかりと子供たちの姿をどのように見取って、どのような学びをさせていきたいのか、どのような環境を整えていくのか、そしてその学びをどのようにつなげていくのかという対話をしていくことが一番の始まりかなと考えているところです。

その対話のツールのひとつが架け橋プログラムであるとか架け橋期のカリキュラムの作成であって、決してカリキュラムを作ることが目的ではなくって、まずは目の前の子供たちの姿から子供たちにどんな力を付けて、どんな成長を見取っていくのか、どのような力を付けてあげたいのかやりたいのかというところ。対話をしながら進めていくことができることが一番なのではないかな。そこから子供たちの主体性だったり、深い学びに繋がっていくという、そういう人たちに繋がっていくのかなと感じたところです。

事務局長　ありがとうございました。

最初の課題にも返るのですが、保育なり幼児教育の現場と小学校とは確かに違いはあるんですけれども、そういった中での連続性なり一貫性というものが、この幼保小接続のねらいとしているところかなと思っております。保育園の方からも、きちんとその交流単なる遊びじゃなくてねらいを持ってやってるんですよというお声も伺ったりしたところでございます。ありがとうございました。

最後に市長にコメントをいただければと思います。

市長　特にコメントというほどでもないですけど、小学校等の連携という部分は先程少し園長先生もおっしゃったんですけど、今保育園の統合して、3つをひとつにしようという取り組みの中で、地域の方々が小学校への連携が非常に地域と離れることで、先程高城小は以前はもう横ですから、非常に交流が活発にというか、いろいろできたのかなというのはちょっと思ったんですけど、ただ今日ちょっとお聞きした中では、それぞれ校区ごとに教育方針を設けて、それぞれその校区のその目標を持っていろんな取り組みがなされているんで、あまりそういうことでは心配しなくてもいいのかなというのはちょっと感じたところです。また逆に言うと、1年生に入った時にちゃんと1学期からいい子してる子を育てようという感じになると、個性の芽を摘むような気もして、保育園や幼稚園の時には、幼稚園は勉強しないといけないかもしれませんけど、何と言うか自由に何か自分のやりたいことだけ、ある程度のそういう何と言うか、教育現場として次のステップに行く時にある程度その整えさせるところまでで、何かひとつの型にはまったようなことに持って行くのが、どこまでかなというのが、ちょっと皆さんのお話を聞きながら思っていたところですね。

字が書けたり、しっかりまず今、小学校45分かな。その間もう1年生の時からいい子してるというのもなかなか難しいかなとか思ったり、自分を振り返ってそんないい子にしてなかったなと思いながら、そういうのもよくよく見ながら、その子の特徴みたいなことが次の小学校のステップに行く時にきちっと繋いであげて、その子の特性みたいなことが、また小学校のステップというか次の段階に入ってもその子らしさを育てつつ、一定の社会性みたいなことがきちっと目と耳につくというか、そういったことに繋がっていけばいいのかなとは、ちょっと感じたところです。

統合問題にしても、これからまた地域の方々はそういう面では少し心配をしておられた面がありますけど、今日のようなお話を聞けばしっかり保育園と小学校、確かに保育園に来るといろんな地域の子供たちがいたりして、ただそれぞれの校区ごとの方針に基づいてやっているんだっていうことも、また機会があれば紹介をさせていただきたいと思ったところでした。

ありがとうございました。

事務局長　ありがとうございました。

先程ありましたようにひとりひとりの多様性にも配慮した上で、5歳児から小学校の1年生この2年間の接続期に身に付けさせたいこの学びであるとか、生活習慣・生活の基盤を育んだりする。そこに一貫性を持たせて行くという手段で、今この接続プログラムの取り組みがあると。

そのためには、やはり学校教育と保育現場なり幼児教育の現場との連携、ここは欠かせない部分であろうと思いますし、坂根係長からもコメントいただきました。やはり対話が必要なんだと。連携連携と言いながら、やはり具体的に事を進めて行く。共通のねらいなり共通の認識を持って取り組んで行くということが大事だろうということが、この会で認識ができたのかなというふうに思っております。

ありがとうございました。

（2）中学生の地元定着に向けた取り組みについて

事務局長　それでは時間が参りましたので次のテーマに参りたいと思います。

次のテーマは、中学生の地元定着に向けた取り組みについてということでございます。

将来を見据えて、この中部地区にある高校以外に進学される生徒さんも今出てきております。

スポーツで希望されたり、或いは中部地区にない学科を求めて、中部以外の高校に進学をされる一定数の生徒さんがいらっしゃいますし、保護者の方も、それを後押ししたいと思っておられるのは、事実であろうと思います。

進学先の選択肢が増えるということは、生徒にとってはいいことであると思いますけども、やはり一方で、中部の高校の魅力が十分伝わってないのではないかということも言われております。

この地元定着ということは、生活をしていく、ここで暮らしていくということでありますが、それについてはやはり「就職」ということが、地元に残る1つのきっかけでもありますし、進学もそうであろうと思います。地元に住み着くことで、地域の担い手と

して、活躍をしていただく。そこには、文化の伝承なり地域の伝統行事の伝承、そういったことの担い手というところでも、ぜひ期待したいところではありますが、現在中田教育長が就任をされてから、言われているのがふるさとキャリア教育ということでございます。

まさに、このふるさと教育、ふるさと学習、キャリア教育を通じて、地元の担い手としての人材を育成をしていくというところが大きなねらいの１つであろうかと思います。

そうした中で、地元の企業様、製造業の中でも都会をしのぐような技術を持たれる企業であったり、或いはＩＣＴを活用したスマート農業などに取り組んでいるというような事例等もございます。ただ、そういうことが中学生の皆様、その保護者の方に、伝わりきってないのではないか、或いはイメージとして、都会じゃないとそういったものが実現できない、田舎では駄目だというような負のイメージといいますか、そういったものを払拭しないといけないのではないかということも言われておりますが、まず、市長の方からこの地元定着というところについてお話をいただければと思います。

市長　地元定着に向けた取り組みとしては、本日、担当課も来ておりますけど、高校２年生ぐらいを対象にして、地元企業の説明会をして、就職先としてこんな企業さんがおられますよとか、そういったことを情報提供しているのですが、もっと早くから、そういう情報を提供した方がいいのではないかということで、昨年度から、農業高校の１年生とか、そういったところから早くからそういう情報を提供していて、ある程度、実業高校とかで、半分とか３分の２ぐらい地元に残る、或いは進学をせずに、職に就こうとしている方には、もっと早くからいろんな情報を提供していく方がいいのかなということで、そういう取り組みも始めたところですけど、早くは中学生ぐらいからかなあなんて。中学生のときに、自分がどんな職業に就きたいかなんてあんまり考えないのかもしれないですけど、考えるきっかけになるかなあと思って。

地元にもこんな企業がある、こんなすばらしい企業があるっていうことを知っていただいて、そのまま就職でもいいし、また１回、都会の大学を出て、そこの企業を意識した格好での学部なり学科を選んで、そこで学んだことが地元でも生かせるような取り組みに繋がれば、より効果的かなと思ったりしております。

中学生の段階から、地元定着というか、就職を意識した、そういった取り組みの機会を設けることとかはどうかな、また、今の中学生はどんな意識をしているのかなということを、現場も含めてお話を聞かせていただけたらと思っております。

（資料により学校教育課長説明）

事務局長　資料の１、４ページに、各中学校の令和５年度の職場体験先のリストがございますが、やはり製造業であるとか、農業関係が手薄かなあというふうに思ったりしているところでございますが、市長の方からも、地元には素晴らしい企業がたくさんあるので、より早く、中学生の頃から、そういった企業を知ってもらうような機会があればというご提案がございました。

本日はしごと定住促進課の方からも、出席をしていただいておりますので、今の取り組みや、中学校までどうかというところも含めてお願いします。

しごと定　今の取り組みいうことで、冒頭市長からのコメントにありましたように、まず、高

住促進課長　校の生徒さん、学校の先生でさえ、名前は聞いたことあるけど、倉吉市にある企業さんが、何している企業なのかあんまりよくわからない。

当然、これは中学校になってくると、さらに生徒さんもわからないし、先生、お父さんお母さんもわからないということで、まず、倉吉の企業が、どんなことしてどんな活動をされているのかというのを、わかりやすくＷｅｂで、デジタルブックという形で、一昨年は製造業40社、昨年は製造業以外に50社、現在90社を作成させてもらっています。

それで生徒さんに知ってもらい、先生にも知ってもらい、やはり高校のタイミングでお父さんお母さんにも倉吉の企業を知ってもらって、安心して倉吉の企業を１つの選択肢にしてもらおうということをまず取り組んでおります。

それ以外に、これも先ほど市長からありましたように、１回倉吉から出て外で学んだ後、倉吉に帰りやすい仕組みをどうつくっていくかという形で、奨学金の返済であったりだとか、帰ってきた時に住むアパート代の補助をおこなったり、企業に支援をするだとか、帰ってきた人を移住者として扱う移住と雇用の確保をワンセットにするような取り組みをしていて、ですから今、「しごと定住促進課」という、仕事の部分と、移住定住のセクションを１つにして、１つの課で動いてるような状況であります。

ふるさとキャリア教育というところ、地元定着というところで、どんなところが必要かということを我々しごと定住促進課で考えていくと、やはり地域に役に立てる人だとか、役に立ててることを喜びと感じる人をどれだけ作っていけるかではないかと思ってます。

その中の１つに、地域で働くということを学びだとか体験することが、とても大事なことではないかと思います。

ドキドキしながら、大人に電話をかけてお願いしますと言ったりだとか、実際、大人の中で仕事をして、そこの従業員さんだとかに、ありがとうねと言ってもらえたりだとか或いは、そのお客さんに、ありがとうねって言ってもらって、これって、とってもわかりやすく地域に役に立ててるんだなっていうのを早めに経験できることだと思っています。

それを喜びと感じるのか、そういうことを早めに経験するということは、とても重要な取り組みだと思っています。

ですから、この資料１にありますように、まだまだ裾野を広げていけたらなと思っています。

教育委員会とも連携しながらやりましょうねと話はしてるのですが、なかなか１歩が進めていないような状況で、今なら広げられると思っていますので、もっともっと広げていけたらなと思っています。

西倉吉工業団地も、今、トンボさんしかいらっしゃらないですけども、いろんな企業、若い人たちも雇いたい気持ちもたくさんあったり、中学校時代から育てて行きたい気持ちを持っている企業さんもたくさんいらっしゃいます。

そのような形で西倉吉工業団地、まだまだ広げられると思っていますし、農業の分野でも、例えば、スイカだとか梨だとか、もっともっと新しい担い手を求めてます

し、変わったところですと関金のワサビの農家さんだとか、関金で実は魚も養殖業としてあったりだとか、いろいろなカテゴリがあったりすると思います。

そのようなところを、しごと定住促進課というか経済観光部の中で、教育委員会と一緒に進めていけたらいいかなと思っています。

今後ともよろしくお願いします。

事務局長　高校１年生にアプローチしてなかったですかね。

しごと定住促進課長　アプローチというか、総合産高と農高の１年生さんと市内企業、大体20社との合同セミナーみたいな就職説明会みたいな形ですが、20社さんが体育館とか広い会場に20ブースを設けて、そこの中で高校１年生の方が、３人から５人、多いところは、例えば、グッドスマイルさんなんかは、すごく人気があって一気に20人ぐらい集まったりするのですけども、そのような形で、合同でこんな仕事をしますよ、働くにはどんなことに気をつけたらいいですかねというようなことを、１年生の段階から就職セミナーで。一方、企業さんの方も、なかなか生徒に対してアプローチの経験がない企業さんも多いので、お互いの練習の場として、昨年から実施させてもらってます。

事務局長　ありがとうございました。教育委員さん、どうでしょうか。

委員　今、お話を聞いて非常に心強く思いました。

デジタル版ができた時に、ネットで見させていただき、本当にいいものができたなあというふうに思いました。

この資料１を見る限りでは、今、事務局長からお話があった通りで、製造業や農業とかが少ない。結局、学校側からすれば、既存の実績のあるところを、やっぱり優先的にした方が受け入れ側もいいでしょうし、学校側の方も、以前の教育委員会でも意見としてお話した中では、市長部局さんの方で、もっともっと手を差し伸べていただきながら、こんなところがあるよ、こういう製造業があるよ、西倉吉の工業団地には、本社は市外だけれども、会社がたくさんあるとか、そういったところ、それからちょっとえげつない話をしたのは、補助金を出してるところはもっと受け入れをしてくれてもいいんじゃないかというような話もさせてもらいましたけども、そういったところで、ぜひ連携をさせていただきながら進めていっていただければというふうに思います。

それと、体験学習を通じて、学習発表会等でされたりするのですけども、もっとこの仕事に就くためには、どんな資格が必要で、どんな勉強をしていかないといけないかというところを、発表ではなくて、掘り下げてもらって、将来の計画展望に、ぜひ生徒さんに考えていただきたい。そういうふうに持っていっていただきたいなと思いますし、それから、全部の企業には回れないので、生徒同士の情報共有をしながら、こんなところがあったよというようなことを、ぜひ情報共有していただきたいなと思います。

委員　いろいろ聞かせていただいて、倉吉にも、いろんな企業があるので、なかなか紹介しきれないぐらいあると思いますので、ぜひ、いろんな企業を紹介してもらって、倉吉はこんなすばらしい市だよ、働くところがあるよというのを紹介していただきたいと思いますし、やはり中学校の職場体験もありますけども、やっぱりいろんなところが参加してくれるといいのかなと思います。

あと、農業とか畜産業に、倉吉に帰って来て就きたいと思った場合、補助的な部分は、何かあるのでしょうか。

あと、農高や総合産高の高校1年生対象の合同説明会ですけども、このときの子供たちの感想とか意見が、もしわかれば教えていただきたいです。せっかくだったら、市内の高校生には全部してもいいのかなという気はします。二校だけでなくて、倉吉の高校に通っている子供たちみんな、将来、帰ってくることもありますので、ぜひそういうこともしていただけたらなと思います。

しごと定住促進課係長　ありがとうございます。

高校生の説明会につきましては、昨年度初めての開催ということもございまして、実業高校であります総合産業高校、それから農業高校、あとお声掛けをしたのは鳥取中央育英高校と倉吉北高校へお声がけしましたけども、タイミング合わないということもございまして、開催したのは総合産業高校と農業高校で、総合産業高校では参加者160名、農業高校でも110名参加していただきました。

それぞれ20社の企業のブースを設けて、20分4回転の機会を設けさせていただきまして、非常に好評のなか終わらせていただきましたので、先生からも今年度もまたぜひ開催していただきたいというお声がけをいただいてますので、ぜひ開催をしたいというふうに思っているところでございます。

学生からも、まだ高校1年生ながらも、将来進路を決めるための非常に有効な情報でした。とか、実際やっぱり対面で話してみてわかったこと、企業の方の大事にしていることとか、挨拶が大事だよとか、そういったことでも、かなり心に響いているみたいで、皆さんが感想の中に、そういったことを大事に学校生活も過ごしていって、社会人になって倉吉のために働きたい、1回出たとしても、また倉吉に帰ってきて働きたいといった意見をいただきましたので、開催して非常によかったなというふうに思っております。

しごと定住促進課長　ご質問のありました農業、最初に就農にあたってというところですが、大体多いのが、農業大学校に半年とか1年のコースに行かれて入られるか、親元か、誰か先輩について、親元就農みたいな形で新規就農だとか親元就農というのは、一定の最初の給料分の支援があったりしますし、それで本格的に農業されるとなると、今度、認定農業者みたいな形になってくるので、設備導入に対して支援というのが、農業の既存の制度という形で考えていけたらなと思っております。

市外から帰って来られるとなったら、移住の支援の中で、宿だとか、引っ越し代とかのサポートというのは支援させてもらえるかなというところで考えます。

委員　保護者としては、子供たちにいろんなことを知ってもらって、まずは経験してもらいたいっていうのが一番なんですけれども、職場体験事業所リストを見ると、おそらく校区内か自分たちで通える範囲の事業所とかが設けられてると思うんですけれども、例えば製造業がない校区もあったり、農業畜産業がない校区の中学校もあるので、そのあたりを生徒の選択肢や経験を増やすものとして、市や教育委員会で応援できないかなと思います。通える範囲、選択肢を増やすということで、例えば、多分送迎とかは保護者は難しいかなと思うので、そういうところを応援して、選択肢が増えるといいなというふうに思っているんですが、校区内の事業所を知ることも大事なんですけれども、倉吉市全体で見たときに、なかなか自分では足を運べないところとか、例えば河北の方から関金になかなか行くこともないので、もし生徒が興味がある

のであれば、そういったところも、柔軟にこの職場体験ができるといいなというふうに思いました。

事務局長　ありがとうございます。

中学校によっては、やはり事業所が少ないところは、校区外にも出かけたりということもあると思いますが、もちろん、いろんなところが選択できるというのが理想的かなというふうには思いますが、今、ざっと見る中で、やはり受入れることができるところ、業種的に言うと、福祉保育或いは販売業のスーパーあたりが多いというように偏っているようなんですが、学校からお願いをするけども、事業所さんの方からお断りがある、ということも聞いたことがあるんですが、何かそういったご経験はありましたか。

学校教育課長　条件によっては、なかなか受け入れが難しいとおっしゃる事業所さんも当然あります。例えば、以前は受け入れていたけれども、今はちょっと難しいとかということも当然あります。

私が中学校にいた当時は、中学校の教員が、保護者などにご協力をいただきながら、事業所の確保をしていたのですけれども、近年、地域学校委員会を中心にして、地域学校協働活動の中で、地域の人が音頭を取って中心になって、事業所を開拓してくれているっていうそういう中学校が出てきているということを知りました。

具体的に言いますと西中なんですけれども、西中は、地域の方が中心になって、事業所を子供たちのために開拓してくださっているというようなことがあるということでした。

事務局長　今日の資料にもありますかね。そこの説明をお願いします。

学校教育課長　６ページの西中の西中だよりNo.８「事業所の確保で中心となって動いてくださったＫさんのお話」というところがあるんですが、このＫさんという方が、西中の職場体験をコロナ禍後に再開するにあたって、いろんなところに声をかけて、事業所を確保してくださったということです。

今、そういうようなことで、その部分は、地域の方に手を貸していただいて、中学校の教員は、生徒の対応、例えば、職場体験というのはどういう目的でするのかとか、実際、誰がどこの事業所に行くのか振り分けをしたり、うまくすみ分けをし、実施している形になっています。

学校側が、もしかしたらここは断られてしまった事業所ということを知らないケースが、今はあるかもしれません。

事務局長　今、企業関係、就職関係の方で話を進めてきておりますけれども、やはり地元に残るきっかけ、もちろん働くすべがないことには生活ができないわけで、就職というのは、一番大事な部分かもしれませんけれども、地元に残りたいというきっかけについては、例えば、地域の文化財なり、伝統行事なり、そういうものを守っていきたい、そういったところに感動して、自分が、守っていくんだというふうに思ったりすることも、１つのきっかけかなと思ったりはするんですが、

今日は、教育委員会から市長部局に移管なりました文化財課の方も来ております。文化財課長の方から、実際に小中学校のリーダー会議に出ていただいて地元の歴史なりを伝えてもらったり、或いは学校に出前授業という形で、各学校に合わせた歴史の学習

等をしていただいてると思いますので、少しその辺の話をお願いします。

文化財課長　資料の方の７ページでございますが、事務局長の方からありましたけど、小中学生のリーダー会議の中でも、各地区ごとでの文化財、自分たちの住んでるところに、どういったものがあるのかなというのをまず知っていただくというようなことで紹介をさせていただいております。

あと、資料にはありませんが、以前は、例えば成徳小学校の３年生は毎年、伝建地区を歩くという地域学習の中で、直接私たち職員の説明を聞き、自分たちの伝建地区がどんなところなのかというような、まちの歴史を知るという学習を毎年行っておられました。

あと、各中学校の方でも、毎年、修学旅行前に、伝建地区をしっかり学習しながら、倉吉のＰＲのチラシを作って、その旅行先で配るというようなこともされておられました。

まずは、倉吉のまちというのが、どういった歴史があるのかというところを学習するところから始まっておられますので、そういったところを文化財課の方も一緒に協力させていただいております。

先ほど出前事業ということがありました。以前は行っておりましたが、最近コロナの関係で出かけることができておりませんけれども、また各小学校、或いは中学校の方に、倉吉の文化財を知っていただくような出前講座というのも、今、計画をしております。

これからも学校教育課ともしっかり連携しながら、そういった取り組みを行っていきたいというふうに考えております。

事務局長　今、伝建というキーワードが出てきましたが、昨日、ホテルセントパレスの方で講演会がありまして、石見銀山ですね、大田市の大森町から、群言堂という会社の松葉さんという創業者の方がお見えになられて、講演会がありました。

彼は、企業経営をしながら、同時に地域を守るような取り組み、まちづくりの活動もずっと携われてこられた方で、彼の言葉の中に、地域の神社を守っていく活動をされたんですけども、やはり自分がいなくなった、倒れた後に、次を担う人材を育てないといけないというところも含めて、やはり地域が絶対的な存在にならないと子供たちは愛着を持って残ろうとしないんだ、と言うようなことまでお話をされていました。

そのためには、ある程度任せる、任せて手伝わせるだとか、そういったことも大事だということもおっしゃっておられました。

博物館長がおいでですが、博物館、倉吉市は文化財含めていろんなお宝が残っています。そういったものを継いでいくということも大事であると思いますし、教育振興基本計画では、感動を体験できる施設ということで、博物館は掲げていただいておりますが、そこら辺でコメントをお願いできればと思います。

博物館長　私もですね、出前授業に小学校或いは中学校に行きます。

その学校に行くと必ず、〇〇中学校のここがすごい。私の話を聞けば、もう堂々と、この地域に住んだことが誇りになる。という様な話を必ずしています。

やはり愛着を持たないと、地元を愛せないと思いますので、私たち自分たちが住んでるところにはこういうものがあるんだよということを、地域に根差した遺産を取り上

げ、或いは偉人を取り上げ、こんな人がいらっしゃるんだ、こうやって自分がここに繋がってるんだということを、理解してもらうような話をします。最近、社小学校の３年生に国分寺の話をしました。

３年生に歴史の話をするのはとっても難しいです。けれども、社小学校の３年生はものすごく目がキラキラしてました。本当にスポンジが水を吸うように、私の話を聞いてくれました。

そういう活動をこれからも続けていきたいと思います。

事務局長　ありがとうございました。

高城にもいろいろそういった伝統行事なり、文化なりあると思いますが、そういった面でのこの地元定着どうでしょうか。

委員　高城の伝統行事といえば、「牛追掛節」ではないでしょうか。ご存じでしょうか。

昔々は、牛馬市というのがあって、牛を売りに、そこまで連れて行くのですが、今みたいにトラックとかがないですので、歩いて牛を市場まで連れて行くのですが、それを模したものです。牛を引っ張る人がいて、牛と一緒に練り歩くというのをやってまして、結構、いろいろなところに呼ばれてそれを披露しております。

これを残していきたいなっていうのが高城ではありますね。

大きい方の牛は、同じ大人がずっとやればいいんですけれども、子牛に入ってるのはもちろん子供なんですけど、子供は大きくなりますので、いつまでも同じ子がするわけにはいかず、小学校の５年生、６年生までできるかなあ、そのあとは別の子に交代しないといけないんですよね。

それを探すのもまた一苦労らしく、尺八を吹く人もいるので、その尺八を吹く人もそうなかなかいないので、それを育てるとか、結局、いろいろと技術をつないでいってこそ残るものだろうと思います。

そういう技術を残していければいいなとは思います。

事務局長　ありがとうございます。

委員　地元に愛着を持つということは、地元の行事とかに参加するというのもとても大切だと思いますが、まず、親がそういう気持ちを持って、その子供を連れて行かないといけないかなと思って、親でもその地元行事になかなか参加しない人は、増えているような気がしますので、やっぱり知らないものを好きになることはできないっていう言葉をこの間どこかで聞きましたが、親が連れていって、一緒になって子供にその地元のいいところを見せる、ということが、本当に必要だろうと思います。

それと、地元に人が残るために、うちの例ですが、うちの子供は、西高、東高に行きましたけど、西高、東高にその求人情報は、もちろんこないですよね。

うちの子は、大学受験したけれども駄目だったので、さあどうしようとなりました。

就職をする人は結構早い段階から、就活に向けて活動するんだけれども、受験をする子供たちって、どうしてもそこが遅れるじゃないですか、就職するっていうことに関して、もちろん求人も来ないし、どうしていいかわからない、どこが募集しているかわからないし、割と進学校の先生はそういうことに関しては、一生懸命になってくださらないですよね。総合産高とかは、一生懸命になってくださるというのを聞いてます。なので、実業高校の子供たちは地元にも、残ろうと思えば残りやすいのかな。でも進学校に

行ったうちの場合は、「どうしよう、もう時間がない。もうこんな3月になって、どうしよう。」っていうので、ネットで調べた専門学校にお金を払って行きました。でも本当はそこまでしなくてもよかった。地元の企業に勤めれば、よかったのになっていう気持ちがあります。

進学校でも一定数そういう子はいるはずです。その子たちを地元に結びつけないのはもったいないと思います。

中学校のときもそうですよね。中学校も進学の話をいろいろ聞いたときに、今の時代ちょっと少ないと思いますが、もし進学しない人はハローワークに行って、仕事を探して就職するんですよ、みたいな話をされたんです。だからこういうところがあるよっていうのを、先生はしてくれないので、そこは何とかして欲しいなっていうふうに話を聞いたときに思いました。

それと奨学金の話が出てましたけれども、もし、うちの企業に帰って来てくれたら、奨学金は企業が肩代わりするよっていう企業が、全国的にですけどあると聞いてますが、倉吉ってそういうところは、あるんですか。

しごと定住促進課長　倉吉にあるかどうかと言ったら、おそらくないと思います。

と言いますのが、県の奨学金の補助金の返還と市の補助金の返還を、重複できるので、これを2つ合わせると全額、今年例えば15万返したら、県と市で、無利子の分だったら半々ずつ補助金もらえば、全額返済になってしまうんで、企業に求めることは今のところはしてないです。

市と県で全額返済を最大8年間だけは対象にしますよという形で、5年過ぎたら、繰上返還も認めますので、上手にされるんだったら、5年は通常のルールで払って、残りの3年で繰り上げてもらったら全額返済できるような形です。最初の質問に戻ると、企業さんに、そこの役割は今のところ担ってもらってない。

行政の中で、市と県で今のところ返済できるようなスキームを持ってますけども、これがどんどん大きくなると行政負担も大きくなるので、どこかのタイミングで企業さんの方も負担をお願いしますねというタイミングはあるかもしれませんけど、今のところは、まだまだそこまでいってないです。

事務局長　では、そろそろ時間になっております。

やはり、最終的には地域に愛着を持つ人を育てる人づくり、ということであろうと思いますが、中田教育長、ふるさとキャリア教育、改めてコメントをいただければと思います。

教育長　本日、いろいろなお話を聞かせていただいて、考えさせられる部分もたくさんありました。

ふるさとキャリア教育を進めていく上で、やはり一番元になるのは、本当に倉吉というところを好きになってもらわないと、そこが一番、根本だと思います。

それから小学校区でもいいんですけど、その地域の人と、地域の子供たちとの繋がりが、より濃いければ濃いほど、一度倉吉から出ても返ってくる確率が高くなっていくので、そういう部分をまずしっかりやっていきたいなと、そこってどこがやるのかなというふうに思うのですが、学校だけでは当然できるわけではないので、地域に関わっているいろんな部署があると思うのですが、うちの社会教育もそうだと思いますし、他にも

あるかもしれません。
　そういった部分をしっかり、改めて大事にしていかないといけないなというふうに思いましたのが１つ。
　それから、地域ということになると、やはり一番盛り上がるのがお祭りとか、そういう部分になってくると思います。
　みつぼし踊りも、団体数も増えてるんでしょうか。
　そういうことも含めて、みんながこぞって、子から孫へ、孫からその次へみたいなそういう取り組みというのもどんどん注目度を高めて、大事にしていかないといけないだろうなというのが１つ。
　あと、仕事関係でいくと、これまで職場体験は、本当に一生懸命学校の教員が企業を探して、ここだったら何とか受けてもらえそうだなというところを学校が探しているのですが、安全なところとか、たくさん受け入れてもらえそうなところとか、限界があるんですよね。
　委員も言っておられたんですけど、逆転の発想で、求人を出してもらうとか。中学校に、うちの企業に来てもらっていいよ。とか、職場体験大丈夫だよ。というように、求人を企業さんの方から出してもらったりすると、一石二鳥かなと、教員も、企業を探す手間も省けるし。それから、これまでにない発想やバリエーションが職場体験の中に出てくるかもしれないし、もしくは、倉吉でこれまで想像もしてなかった企業と子供たちが出会えるかもしれない。
　こうなってくると本当に、しごと定住と学校教育とタッグを組まないとできないことになってくるんじゃないかなというふうに思います。
　いろんなやり方、いろんな工夫で、今後の倉吉の担い手を育てていくということを探っていかないといけないだろうなということを思った次第でございます。
　今日は、本当にありがとうございました。

事務局長　それでは最後、市長に締めていただければと思います。

市長　皆さんに、いい意見を出していただいたし、今後の取り組みに向けての示唆みたいなこともいただいて、今教育長がおっしゃったように、企業の情報は、しごと定住の方が持っているので、こういった特徴のあるところ、或いは職場体験ＯＫしてもらえるところだったり、こっちから情報を出す。
　グッドスマイルカンパニーだとか、そういったところをどんどんアピールして、日本の中でここにしかない企業が倉吉にあるということを知らないだろうということをまずお知らせして、どこに行ってもないものが倉吉にあるんだとか、そういった特徴だったり、それから、先ほど親のお話も出ていましたが、親も、都会に行ってコマーシャルに出るような企業に勤めないと成功したように思わないのかもしれないけれど、そんな世界のトヨタにでも繋がっているような企業が、結構一杯あって、そこの車の一部分をしっかり作っている企業があるとか、そこの中でも素晴らしい技術を持っている企業があるだとか。
　農業も、今はスマート農業がこんなふうになっていて、昔みたいに手で何でもやっていくような時代ではないとか、林業もそうですよ、枝をさーっと取れるような、僕が運転できるぐらいの機械が今はあるので、昔のような木こりの世界みたいなそんな時

代ではもうないとか、そんなことをどんどんやっぱり若いうちから教えてやって欲しいというか、感動体験だったり、それを知るという。知らないと好きになることがないっておっしゃったけどそういうことかな。

ただ、そういう特徴のある企業の名簿とかをお出しして、体験等ＯＫのところに、学校から依頼を出す、また、市役所のバスを提供するなり何なり、その辺はどんどん今日の話で支障になってる部分というのは、解消できることが結構あったりするので、地元の取り組みだったり、より若いうちから、みんなに教えてやっていきたいなとは、思いましたね。

また、いろんなご意見を聞かせていただきながら、そういった取り組みにつなげていけるんじゃないかなと思ったところでございました。

ありがとうございました。

事務局長　ありがとうございました。

では、以上で協議事項のほうを終わらせていただきたいと思います。

5　報告事項

事務局長　次に報告事項としておりますが、もう時間が超過をしておりますので、すみません、こちらは資料をご覧いただくということで、ご確認をいただければと思います。

なお、こちらの令和５年度の評価については議会の方に報告をさせていただきます。

6　その他

事務局長　市長なり、教育委員さんの方から何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（その他　意見なし）

事務局長　では時間が超過をして申し訳ございませんでした。

以上で第１回の総合教育会議を終わりたいと思います。

本日はありがとうございました。